

出張報告書

令和 1 年 8 月 1 日

会派名 志誠会
会長 立崎 聡一 様

出張者氏名 近藤 憲治 

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和1年7月 ³⁰ 日(火) ~ 令和1年8月 ¹ 日(水) [2日間]						
出張概要	①	月日	7月 ³⁰ 日	市町村名	大阪市	会場	大阪市内
		目的	SDGsカードゲームセミナー				
		テーマ	・SDGsについて理解を深めるセミナーへの参加。				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的	移動日				
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

SDGs カードゲームセミナー（大阪）

国連の SDGs（持続可能な開発目標）を網走市の施策に落とし込むにあたり、市民の認知度を高め、理解を深めていく必要があるとの前提に立ち、SDGs の意義や役割をカードゲーム方式で学べるセミナーに参加した。特に SDGs だけに限ると、世界的課題や国際問題等、地域から見ると縁遠い存在に感じられがちだが、実は地方創生という視点に立っても SDGs の考え方は応用できることを発信する「SDGs de 地方創生ゲーム体験会」は自治体職員等からも人気があることを伺っていたので、大阪での開かれた体験会に参加した。講師は、SDGs de 地方創生公認ファシリテーターの森伊知郎氏。冒頭、森氏から「SDGs とは、地域や世界とつながり、ともに持続可能な本当の幸せを実現するための新しいものさしであり、世界共通の合言葉」とのメッセージから体験会はスタート。約 20 分の概論紹介では、まちづくりに SDGs の視点を取り入れる意味のほか、そもそもまちの課題は何かを探る視座の獲得と参加者の行動変容を体感する狙いの説明があった。その上で、問題や課題は相互に関連しており、SDGs ではその根源を 17 のゴールと 169 のターゲットで明示、何か一つを解決すれば良いのではなく、相互に同時に解決していく視点に加えて、ゴール後の社会の在りようから逆算して課題解決の道筋を探る「バックキャストिंग」の思考について紹介された。その後、カードゲームの体験会（約 2 時間）となるわけだが、地域の課題を地域の資源や人財で解決しながら、収益を上げ、また、その収益をもとに新しい課題解決に挑んでいくというサイクルを体験しつつ、課題の相互関連性やバックキャストिंग的な思考の意味を実感するひとときとなった。その後の意見交換は学びのシェアの時間であり、危機に瀕しているのは地球ではなく、私たちの考え方であること、今こそ、「ビジョンを描くこと」「ネットワークをつくること」「真実を語ること」「学ぶこと」「慈しむこと」を大切にしたいことを確認した。